

郷だより

No.246

社会福祉法人大阪福祉事業財団
三島の郷高槻市大字原924-4
電話 072-688-0768

今月の企画

- | | |
|------|---------------|
| 1面 | 一泊旅行 |
| 2・3面 | 医務情報 |
| 4面 | トピックス
行事予定 |



撮影 人羅弘一

天橋立 またのぞき

6月8日～9日、利用者さん、支援員合わせて12名で天橋立・城崎方面へ一泊旅行に行ってきました。天候が少し心配でしたが、ほとんど雨に降られることも無く皆さん2日間の旅行を満喫されました。天橋立での「またのぞき」や城崎マリンワールド、温泉など、利用者さんにとっては、旅先での新しい発見や体験を得る機会になりました。

帰ってきたら利用者さんのデジカメに上のような写真が残っていました、これぞ天橋立というような写真が撮れていてびっくり!

【園田】

自信につながりました

去る6月24日～29日芥川商店街の中にある登美屋さんという喫茶店において作品展販売会を行いました。

結びおり班・陶芸班の手づくり作品や園芸班のじゃがいも・農作業班のにんにくを置かせていただきました。

またサークルの時間



品が売れたこともあり、大きな自信につながりました。

【中谷】

に作製した絵や書なども壁に飾って店内を三島の郷一色に塗り上げました。

お茶を飲むかたわら並べてある作品を手にとってくださいさる方も多く、作品が出来上がるまでの過程を説明させていただくと「いいものが出来るんですね」と褒めて下さる方も多くありました。

思っていた以上に作

夏まつり

ただ今準備中・・・



今年も7月29日の夏まつりに向けて、仲間との会でゲーム内容・昼食のメニューなどについて話し合い準備が進められています。

○内容

- ・魚釣り・射的・ボーリングなどのゲーム
- ・スイカ割り
- ・盆踊り
- ・花火大会

期日前投票に

行ってきました!

7月10日の参議院議員選挙の投票日に向けて、毎日数人ずつ服部図書館まで期日前投票に出掛けました。

投票所では係員の方が丁寧に説明して下さい、利用者の方だけで投票を済ませることも多くありました。



【吉田】

新入所の方のご紹介

(高槻市) ひろこ
後藤尋子さん
(6月27日付)

行事予定

- | | | | | | |
|------------------|-------|-------|--------|--------|--------|
| 7月25日 | 7月27日 | 7月29日 | 8月20日 | 8月21日 | 9月7～8日 |
| ガレーシセル
(浪速商事) | 日生健診 | 夏まつり | お花サークル | カラオケ大会 | 一泊旅行 |

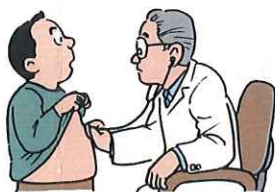
七夕の季節。皆さんが書かれた短冊を見てみると、

「目がよくなりますように」

ように」

「足が痛くなりませんように」

など、年々健康に関するお願いごとが増えてきているのを感じます。



研修を受けての感想

応急処置を今まで自分が行なう場面に立ちあうことがないなかで自分自身が思っていた処置の仕方が違う事に気付きました。また、噛み傷やすり傷のように傷によって対応が変わることも今回の医務研修で感じました。

利用者の方に怪我がないように支援することとはもちろんのことですが、万が一怪我をさせれば処置が必要になった際に冷静な判断が出来るように日頃から医務の方との情報交流をすることが大切であると思いました。

森本頼恵

平成28年4月1日採用

稲田看護師による傷の手当の研修



看護の体制も谷山看護師・亀之園看護師に

診というものは緊張するものなのですが、年々慣れてこられて怖がらずに検診を受けることができるようになってきています。

検査・検

今年度も
検便・検尿
採血をはじめとする内科検診・ユニット毎の耳鼻科検診・眼科検診などが始まり
ました。



平野先生によるリハビリの基礎研修

加え、昨年まで支援員をしていた稲田看護師が加わり三名で全員の健康状態を把握していきます。

同時に新任職員を迎えて研修活動にも力を入れてきています。

稲田看護

師による「傷の処置の仕方」の研修や、長年利用者の加齢による体幹の衰えなどを診ていただいている平野理学療法士による「リハビリの基礎」の研修など、

いまでも大切に暮らしています

こんにちは



今年度より配置医師

が角辻格（すみつじい）先生になりました。先生は高槻市宮田町で開業されています。身長一八〇cmと大柄な

先生です。

月一回の往診時には、医務室で穏やかに利用者の方々に話かけられます。よろしくお願いします。

研修を受けての感想

介助をする際に、理由・目的など考えなければならぬという話を聞いて、今まで理由など考えていなかったことに気付きました。介助をする理由をしっかりと考え、また利用者の方々に対して、何でもしてしまおうのではなく本人の力が出せるような支援をしたいと思いました。

リハビリを行なうことの大切さも分かったので、少しでも体を動かせるような言葉かけをこれから行ないたいと思います。

砂原華乃

平成28年4月1日採用